

# 櫻工

第2号

1955

日本大学工科校友会

# 桜 工 第 二 号

1955年

## = 目 次 =

会長就任に当つて	藤井 章	1
和敬の精神	市川 良正	2
会誌発刊に感激して	石川 暉	2
競技設計について	宮川 英二	3
建築学会競技設計入選作の紹介		4
特集故藤田先生追悼座談会		6
理学博士佐藤省三兄 のプロフィール	山本 利夫	11

松田勲次郎氏のことども	小野竹之助	12
日本建築学会賞を受賞した 「大火調査資料」について	斎藤 謙次	13
新しい卒業生へ私の希望	三宅 康友	14
溢れ水	伊藤 真治	15
就取に関する懇談会		17
学生投書欄		18
支部通信		19
群馬県、あきとし会、宮城県、都水道局、 建築一六会便り		
研究室便り		22
昭和三十年年度総会報告		23
博士祝賀会		24
編集委員会記事		24

## 会 長 就 任 に 当 っ て

藤 井 章

去る七月九日開催されました総会に於て、佐賀前会長の後を受け不消私が会長の席を汚す事になりました。

省ますに我が工業学園も齢既に三十有余年、校友三万数千に垂々とする一大工業学園に発展致して参りました。先般総会后校友にて博士の学位を得られた方々に御集り願ひ、校庭に祝賀の宴を張るを得ました事も、校友と致し誠に御同慶に堪えぬ次才で御座居ます。と同時に他の取組に於かれても之に優るとも劣らぬ御活躍をされて居られる校友の多き事に対して亦满腔の敬意を表する次才であります。名実共に功成り名遂げられたと雖も、誰か詰襟姿の青年学徒時代の懐旧の情に思いを致されない方が御座居まじやう。学窓の思出も今は遠く、古の事実であります。そして星移り人も変つて居ります。然し今も尙変らないのはニコライの鐘の音を聞き、同じ校舎で、同じ学問にいそむ多くの学徒の姿で御座います。

彼等は、我々もそうであつた様に、近く社会に出て大いに貢献せんものと努力致して居ります。この健気な覚悟を大成させるには我が校友会も大いに努力しなければならぬものと信じます。幸にして学校側は若きエンジ

ニア一育生の為其の全智全能を傾倒され、卒業生就取と言ひ面では職員総力を挙げて関係方面に声を大にして呼び掛けて居ります。然し動く人数には限りがあります。

我々校友と致しましても徒手傍観は許されぬものが御座居ます。昨年度は校友有力者と学校の就取関係の先生が相集り、就取に関する懇談会を開催され、陰に陽に後援をして参りました。今年度も積極的に関係諸方面に働き掛けて、後輩学生諸君の光明の為に大いに努力致し度いと存じて居ります。斯くの如く諸事業を円滑に進展させる事こそ、我が校友会の発展の為必要欠く可からざる事と思ひます。然し乍ら事業の為には費用が必要である事は言うまでもありません。こゝ数年間の校友方の経常会費（年額200円）納入状況は決して活潑なものとは見受けられない事実が御座居ます。会員諸賢の会費御納入こそは校友会が円満に発達し、其の基礎を磐石の安きに置く所以のものと愚考致し校友諸賢の御批判を仰ぐと共に、母校発展の為御助力下さらん事を懇願致し、以て就任の御挨拶に代える次才で御座居ます。

（校友会長 学電一回卒）

## 編集後記

残暑御見舞申し上げます。記録破りの暑さで編集室もすっかり伸びてしまいました。本号の企画は新学期早々刊行の下に進めて居りましたが、色々の事情の爲夏休み中に発行となりました。創刊号の御批評をたくさん戴き誠に有難う御座いました。御叱りもあり、御褒めの言葉もありました。然しこの機関紙こそは

校友会の発展に最も大きい方をもつて居るものと信じ、スタッフ一同全智全能を傾けてやつて居ります。何卒この点を十分に御汲みとり下さいますとどしどし御批判を下さる様御願致します。本号に石原先輩も云つて居られる如く何によらず御投稿下されば全国に散らばつて居られるクラスメートに消息を御伝える最も簡便な方法と考えます。どしどし御利用下さい。(8. 19. 1955)

### 桜 工 第2号

昭和30年8月20日 印刷  
昭和30年9月1日 発行

編集人 杉 村 俊 一  
発行人 高 木 政 司

印刷所 東京都北区中十条3/23  
ジャーナル社印刷所  
電話(9)2124番

発行所 東京都千代田区神田駿河台1/8  
日本大学工科校友会  
電話東京(29)7711代表一9番  
振替口座東京162710番